

令和元年度 第2回吹田市ごみ減量再資源化推進会議 議事要旨

1 日 時

令和2年2月17日（月）午後2時から午後4時まで

2 場 所

吹田市役所 中層棟4階 全員協議会室

3 出席委員

会長 市民団体6名 事業者7名 行政1名 計15名

4 概要

(1) 吹田市ごみ減量再資源化推進会議の活動報告について

資料1について事務局から報告。

- ・キャンペーン時での声掛けで、「食品ロス」という言葉を認識している人は多い印象を持った。
- ・他市では、マイバッグ持参を促進するキャンペーンは広まっているが、食品ロス削減キャンペーンはあまり見たことが無い。

(2) 吹田市からの報告について

資料2について事務局から報告。

- ・「フードドライブ」という言葉は広まっていないため、周知を早めに行うことが重要である。兵庫県では広まっているように感じる。
- ・フードドライブを企業で実施しているが、市民、事業者、行政で役割分担をして実施する仕組みを作ることが長続きさせるうえで重要だと思っている。
- ・事業者としては、廃棄ロスはできるだけ出ないように努力しているが、他の方法も研究していきたい。
- ・菓子類や賞味期限切れ間近の商品の在庫があれば、フードバンク活動にも協力できるかもしれない。
- ・取り扱う商品が長期保存できないため、なるべく販売しきって、余ったものは家畜の飼料等にリサイクルしている。
- ・生鮮食品が廃棄の9割を占めるが、処理に多額の費用がかかるため、廃棄ロスを減らす努力をしている。リサイクルも積極的にしているが、大阪府に堆肥化している業者がないため、輸送コストがかかり、費用が膨らんでしまう。
- ・京都市内事業者の事例で、消費期限・賞味期限が近付いている商品に付ける割引シールに、「食品ロス削減に御協力お願いします」というコメントが記載されていた。消費者が「安価な商品を購入する」だけでなく、「食品ロス削減の手伝いをする」という意識になって、購入しやすくなるのではないかと思う。

(3) 今後の取組について

資料3、別紙、資料4-1について事務局から説明。

- ・消費期限・賞味期限の違いについて、スーパー等なら大々的な掲示、メーカー等では包装紙へのコメントの記載等が出来ると思う。
- ・小学校の環境教育支援として、小学4～6年生のクラブ活動として食品ロス削減のすごろくゲームをしている。小さい時から食べ物を大切にするというのは根本的な教育になるが、「食べ物を大切にしなければならぬ」、「世界ではお腹を空かせて死んだり病気になったりする子がたくさんいる」ということを伝えることはかなり大事だと思う。
- ・保育園では、「食べなければならぬ」と教えるのではなく、給食の野菜の栽培方法等を皆で学ぶことで食べられるように工夫している。
- ・消費者が奥から商品を取ると陳列が乱れるため、手前取りキャンペーンは非常にありがたい。
- ・作成したポップを使用して、手前取りを1か月間試験的に実施している。特に賞味期限が長いものから購入されていた肉類や魚類のコーナーと、牛乳や日配食品のコーナーで実施した。
- ・手前取り等の取組は、三者協働で実施する方が良い。そうでないと、事業者が利益のためだけに実施しているととらえる消費者も出てくるかもしれない。
- ・消費者側からすると、割引されていれば、期限が近いものから購入する。
- ・期限が切れてもすぐに捨ててしまうという消費者の意識を変えることが重要である。
- ・今後、「手前取りキャンペーン」、「フードドライブ」、「消費期限・賞味期限の違い等の周知」に取り組んでいく。
- ・お中元やお歳暮等の時期に、市役所内でのフードドライブの実施を考えている。

(4) その他

資料4-2、資料4-3について事務局から説明。

- ・使い捨てプラスチック撲滅のため、会議ではマイボトルを持参してほしい。